

## 中期目標検討委員会の設置について

平成 20 年 10 月

### 1. 趣旨

- ・ ポスト京都の交渉期限であるCOP15を来年末に控え、我が国として中期目標の検討に早期に着手するとともに、検討のプロセスにおいて用いられるセクター別積み上げ方式等に関する知見を国際的に提供し、交渉の進展に貢献していくことが必要。
- ・ 検討は、内外に説得的に発信できるよう、モデル分析等を精緻に行うなど科学的、理論的に行うべき。また、地球温暖化問題の解決、経済成長、資源・エネルギー問題が両立するよう総合的な観点から検討を行うことが必要。主要経済国等についても同様に分析し、比較。
- ・ こうした検討を行うため、地球温暖化問題に関する懇談会の下に、分科会として「中期目標検討委員会」を設置する。
- ・ 我が国の中期目標は、こうした検討を行った上で、来年の然るべき時期に政策的に決定する。
- ・ 検討のプロセスにおいては、委員に複数の目標値を仮置きしてもらい、それぞれを実現するための対策(ライフスタイルの転換、国外での削減や森林等の吸収源の整備なども含む)に伴うコストや経済的なプラスの効果、対策を取らない場合のコスト等を明確にし、国民に選択肢として提示する。検討に当たっては、産業界、有識者、NGOからのヒアリングや、国民へのアンケートなど広く関係者の意見も聴くこととする。また、節目節目で地球温暖化問題に関する懇談会に報告する。

[テキストを入力してください]

- ・ なお、選択肢として提示される複数の目標値のうち、我が国の中期目標として何を採用するか、また、対外的にどのタイミングで発表するかについては、全ての主要経済国の参加との関係など、国際交渉の状況や国内世論の動向等を踏まえ判断する必要があり、地球温暖化問題に関する懇談会の意見も聴きつつ、政府において別途判断。

## 2. 検討事項

### 中期目標の検討に当たっての要素

- ・ 目標設定の手法(基準年、目標年、セクター毎の積み上げ手法、世界全体のピークアウトや半減目標との関係等)
- ・ 各国の目標設定の現状と評価
- ・ 中期目標の構成要素(エネルギー起源CO<sub>2</sub>、その他ガス、土地利用・森林、CDM)
- ・ マクロフレーム(経済成長率、人口変化率等)

### セクター別積み上げ方式に基づくモデル試算と評価

- ・ 長期エネルギー需給見通し、国環研・RITE の分析の評価、マクロフレームを含む前提条件の比較等
- ・ 各国の削減ポテンシャル比較

### セクター毎の削減ポテンシャルの検証

- ・ セクター毎の削減ポテンシャルの検証(エネ起 CO<sub>2</sub>(産業部門、運輸部門、民生部門、発電部門)、その他ガス、土地利用、森林)及び各国比較

[テキストを入力してください]

## 対策ごとの削減ポテンシャルと限界費用分析

・原発、太陽光、次世代自動車、CCS、交通対策、建築物対策等

仮置きされた複数の目標値ごとに、目標達成に伴う経済成長との関係、エネルギー安全保障への影響を含めた経済的、社会的影響を分析

・マクロ経済への影響

・雇用、物価等の国民生活への影響

・国際競争力等産業に与える影響 等